



葉山小だより

「自分で考え 行動する子」「仲良くする子」

令和5年度
No. 14

2024. 3. 18

葉山町立葉山小学校

校長 安達 禎崇

◇◇6年生を送る集い(全学年)◇◇



3月4日(月)全学年が体育館に集まる形で「6年生を送る集い」を実施しました。昨年までは、感染症対策の中、各学年順番に体育館に行き6年生に発表する形だったので、全校が一堂に会することができ、とてもうれしく思いました。

発表に関しては、1年生から5年生までが、6年生に対するそれぞれの感謝を込めた歌やメッセージを送りました。各学年が練習から一生懸命取り組んできたことが伝わる素晴らしい内容でした。そして、最後に6年生からお礼として、卒業式で歌う「最後のチャイム」の合唱がプレゼントされ、下級生たちは真剣な眼差しで歌声に聞き入っていました。6年生からの素晴らしいバトンパスを受け、1年生から5年生の心に響く「6年生を送る集い」になったと感じています。(教頭筆)

◇◇ウニ堆肥を補充するぞ(杉の子学級)◇◇

三浦半島の海ではムラサキウニが大繁殖し、海藻類が無くなる「磯焼け」の被害が深刻です。大繁殖したウニは中身が空っぽで食用にはなりません。葉山町では、ダイバーや漁師、企業の研究室、老舗の日本料理店らが連携して、磯焼けの要因となっているウニを除去し、堆肥化して地元農業に活用する動きが進んでいます。このウニ堆肥、葉山小学校では一般社団法人葉山の森保全センター(HFC)さんのご協力により設置された木枠の中に保管し、花や野菜の栽培に使わせてもらっています。

3月4日(月)、この日は杉の子学級の児童が、ワクワクタイムの学習として、漁師さんたちが駆除してきたウニを堆肥化するべく、実際に自分たちでウニの殻を割って粉々に砕き、既存の堆肥に加え補充する活動をしました。最初はウニの殻と格闘していた子どもたちでしたが、だんだんと要領を掴んで、効率よく殻を砕くことができました。「殻、おかわり」で、がんばる子が何人もいました。

堆肥は全校児童が使う物。杉の子の皆さんが補充してくれて、とてもありがたかったです。



◇◇特別賞をいただきました(PTA)◇◇

3月3日(日)に行われた「はやまエシカルシンポジウム」の中の「はやまエシカルアワード2024優良事業者表彰」において、葉山小学校PTAが特別賞を受賞しました。はやまエシカルアクション賛同団体としての活動が認められたものです。今回は「葉山夏みかんプロジェクト」さんとのコラボで、夏みかんを使った森戸神社の「清めの塩」づくりに葉山小の5年生とともに取り組みました。

表彰式ではPTA代表の方と5年生の代表児童が2名が登壇し、町長より特別賞が授与されました。



◇◇卒業を前に(6年生)◇◇



3月1日(金)に小中連携の一環として葉山中学校の先生による出前授業(英語)を受けました。子どもたちは中学校の授業の雰囲気を感じました。<左>

3月7日(木)は1年生とのハッピータイム。6年生と1年生の組み合わせは、発達段階の違いを一番感じることができるペアです。普段クラスではやんちゃな男の子も、この日は1年生に

対し「大丈夫?」「こうやるんだよ」等、やさしく声かけをしている姿にほっこりさせられました。とても寒い日でしたが、校庭は子どもたちの元気な声があふれていました。<右>(この後、6年生はビーチクリーン活動に出発しました)



3月8日(金)は外国語の時間にクラスごとにレシテーション大会が行われました。レシテーションとは「暗唱」のこと。今回は1分程度の英文を暗唱して、その発音の正確さ、明瞭さ、イントネーション。また声量や目線などの表現力を磨きました。どのクラスも緊張しながらも真剣にスピーチに取り組む姿が立派でした。<右>

3月11日(月)昼休みには6年生有志メンバー対先生方有志メンバーによるサッカー対戦が行われました。「思い出作りの一環」とはいえ、双方とも真剣そのもの。特に先生方は見ている方が「怪我をしないか」心配するほどでした。<左>



14日(木)の朝の集いでは、一年間頑張ってくれた各委員会のメンバーに拍手が送られました。<右>



卒業を前に小学校での思い出を一つひとつ刻んできた6年生。明日はいよいよ卒業式です。